

主体的に課題を解決することができる総合的な学習の時間の授業づくり
～地域の「人・もの・社会」との関わりを通して～

日立市立水木小学校

1 はじめに

本校では、総合的な学習の時間を「道徳・特別活動の具体的な実践の場」として捉え、「チャレンジタイム」と称して、学習活動に取り組んでいる。

また、本校の教育目標である「心身ともにたくましく、知性と人間性に富んだ水木っ子の育成」を踏まえ、研究主題を「地域の人・もの・社会とのふれあいを通した、学び方や表現力の育成」とし、期待する児童像を「課題に対して追求する意欲のある子(学ぶ意欲)」「自分の考えを進んで発表する子(表現力)」と設定した。

今回は、3年生の「水木まちはかせになろう」の実践事例を紹介する。「もっと水木について知りたい」という願いから出発し、「自分たち、町の人たちのために」という相手意識、「よりよい水木地区にしたい」という目的意識に繋げていくことで、探求的な見方・考え方を働かせた、総合的な学習を進めていく。

1学期は、社会科との関連を図り、学区探検を通して、わたしたちの住む水木地区にどのような建物や文化遺産があり、どのような特徴をもった地域なのかを考え、探っていく。2学期は、1学期に発見したことをもとに、水木地区について疑問に思ったこと、さらに知りたいことを、各自が課題として設定し、校外学習、ゲストティーチャーによる講話などの体験学習を交えながら、調べ学習を進めていく。

3学期は、それらをまとめ、学習発表会として保護者や地域の方々に向けて発表するという流れで学習を計画している。

2 指導案

(1) 単元名 水木まちはかせになろう

(2) 目 標

- 学区探検を行い、地域や普段利用している施設について探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、意欲的に追求しようすることができる。 (課題設定力)
- お互いに考えや意見を出し合いながら、課題の解決に主体的に取り組み、友だちとわり合いながら協働して学ぶ態度を育てる。 (コミュニケーション力)
- 水木の歴史や文化、施設などについて調べる学習を通して、自分たちの住む地域のよさや特徴に気付き、それらを分かりやすく伝えることができる。 (表現力)
- 自らの課題を解決するために、情報を選択したり、収集したりし、まとめに生かすことができる。 (情報活用力)

3 指導にあたって

3学年では、社会科の「わたしのまち、みんなのまち」との関連を図り、町探検の学習を踏まえ、「水木まちはかせになろう」という視点で地域を見直していく。目標には、探求的な学習を

通して、主体的に課題を解決するために必要な情報を収集・整理することや、仲間と協働して課題を追求する力を身に付けること。自分たちの住んでいる地域に愛着をもち、水木地区の伝統を受け継いでいる誇りを大切にしようとする態度を育てることを掲げた。

本単元では、児童自らが課題を主体的に解決していくことが重要と考え、本やインターネットでの調べ学習に止まらず、ゲストティーチャーの方々との関わりを多く設定する。ゲストティーチャーから地域の実情を直接見聞きすることで、児童はより強く地域の方の思いや願いを知ることができ、意欲的に課題を追求していくと考えた。

例えば、実際に泉神社やイトヨの里に校外学習へ行き、現地でイトヨの里公園運営委員会の方々をゲストティーチャーとしてお招きして授業を行う。その結果、児童は水木神社の起源や、イトヨの里が市民の手によって作られたという成り立ちを知ることができる。その上、イトヨの里に生息する動物や植物を直接手にとって学ぶことができるため、意欲、知識共に高めることができると考えた。

また、学区内にある「はぎや旅館」の代表による出前授業では、数十年前の写真を見ながら、水木地区の歴史や防災、伝統文化である「ささら」について知ることで、課題意識を深めることができると考えた。

ゲストティーチャーの活用の際には、児童にとって本当にその活動が必要なのかを吟味し、より効果的な学習ができるように内容の調整を図る。また、お話いただいたことで分かったことや、今後調べたいと思ったことを手紙などで伝えられるようにしたことで、その場に止まらない関係を築くことを重視する。

課題を追求する中で、新たな課題「分かったことを伝えよう」を設定し、どのようにまとめ、提示すれば、相手に水木の魅力がより伝わるかについて表現方法を考えることで、水木の一員としての自覚を深めて欲しいと考え、本単元を設定した。

4 単元計画

	学習計画	主な学習内容
出 会 う	・学区探検で発見したことをマップに表そう。 ・マップ作りを通して、疑問に思ったことや更に知りたいことを課題に設定しよう。	・通学路のマップを作る。 ・家の人や近所の人から、水木地区の特徴について聞き取る。 ・水木のまちについて、さらに調べたいことを課題に設定する。
追 求 す る	・調べる計画を立てる。 ・課題について調べよう。 ・校外学習を行ったり、ゲストティーチャーから話を聞いたりしよう。 ・調べたことをまとめよう。	・課題をより詳しく設定し、どのように調べるか計画を立てる。 ・本やインターネットで課題について調べる。 ・体験的な学習を通して、水木についての理解を深める。 ・追求したことを、各々の方法でまとめる。
ま と め	・家族やお世話になった人を紹介して、まとめたことを発表しよう。 ・課題追求し感じたことをまとめよう。	・今までの学習のまとめを発表する。 ・水木の一員であることへの自覚を深める。

5 本時の指導

(1) 目 標

- 調べたことを発表するために、これまでに調べてきた内容を、どのようにまとめると相手により分かりやすく伝わるかについて、積極的に考えることができる。

(2) 準備・資料

これまで調べてきた資料、ふせん、総合ファイル、ワークシート、ふりかえりカード

(3) 展 開

☆知識・技能を活用する手立て ○個に応じた支援

学習活動・内容	支援と評価の観点
1 本時のめあてを確認する。 これまで調べてきたことをまとめる方法を考えよう。 2 昨年度までのまとめ方を確認する。 ・模造紙にまとめる。 ・紙芝居にまとめる。 ・ペープサートでまとめる。 ・新聞にまとめる。 3 班ごとにまとめ方について話し合う。 4 発表会までの計画を確認する。 5 本時の活動を振り返り、次時の学習内容を確認する。	・めあてを個人のワークシートに記入させ、本時の見通しがもてるようにする。 ・昨年度の3年生が行った発表会の様子の写真を掲示することで、発表会のイメージを想起させ、協力して準備を行おうという意識を高める。 ・昨年度のまとめ方を確認しながら、文字の大きさや挿し絵の入れ方など、気付いたことを話し合うようにする。 ・話し合いの結果、気付いたことをふせんに書いて、班ごとにまとめることで、自分たちのまとめ方について考える材料にする。 ☆どのようなまとめ方をすれば、自分たちが調べてきたことを分かりやすく伝えることができるか、一人一人が自分事として関わるようにする。 ○見通しがもてない児童には、ふせんをもとに、それぞれのまとめ方の長所、短所を確認させ、一番分かりやすい伝え方について考えるようにする。 ○発表会までの大まかな流れを掲示し、ゴールを明確にすることで、まとめ方への見通しを誰もがもてるようにする。 ・ふりかえりカードに振り返りを記入させ、これから発表会に向けて積極的に取り組もうという意欲がもてるようにする。

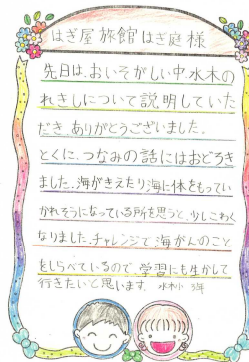
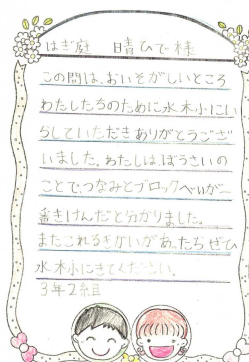
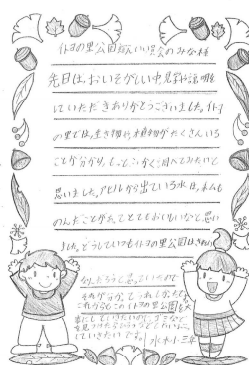
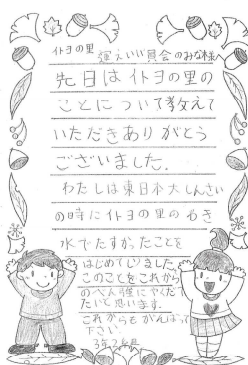
3 資料



ゲストティーチャー(GT)のお話①

GTのお話③

イトヨの里にてGTのお話②



4 成果と課題

(1) 成果

- ゲストティーチャーとの学習では、場の設定を工夫することで、児童の意欲が高まり、知識を深めることができた。また、調べていく中で疑問に思ったことは、手紙を通じて質問することができる関係を築くことができた。
- 全教科で取り組み、身につけた学び合いの技能や、振り返りの活用を、総合的な学習の時間にも生かすことが大切だと考え、振り返りの充実を図った。活動を通して「分かったこと」「疑問に思ったこと」「次に調べたいこと」「日常生活や他教科と関連づけて気付いたこと」などの視点で書くことで、課題を明確にし主体的に課題解決に取り組むことができた。

(2) 課題

- 泉神社やイトヨの里でのGTによる授業は、移動時間を含め80分程とり、余裕をもった計画を立てたつもりではあったが、子どもたちは動物や植物に大変興味を示し、時間が足りないと感じる程であった。子どもたちが満足する活動にするためにも、時間の計画や配分は改善する必要がある。
- 児童は自ら設定した課題を解決するために、主体的に活動することが分かった。しかし、情報を収集したくても、校内の図書室では資料が足りなかったり、インターネットでは、思うような情報を得ることが出来なかったりすることもあった。今後は、地域の図書館や日立市の市民教授などを活用し、情報の収集、整理がよりスムーズに図れるように環境を整えたい。